

守り

山代神楽は、約200～300年前から各地に伝わったときから、戦争や高度成長期などを乗り越え、演目や所作、奏楽が先人達から受け継がれています。

【代表的な演目】



天の戸（あまのと）
弟の悪行により天照大神が岩戸に隠れたため、天地は闇に覆われてしまいが、神々の計略により天照大神を連れ戻す。神楽の始まりとされる演目。



五郎王子（ごろうおうじ）
四季、領土を4人の兄弟王子が統治するところ、五郎王子が現れ自らの持ち分を主張するが断られ、合戦となる。五行（自然の哲学）を説き、五穀豊穡、繁栄を祈る舞。



山の神（やまのかみ）
年祭に奉納される神がかりの舞で、天犬將軍、山鏡舞、山鏡めとも呼ばれる。

※各団体の演目表記は内面を参照。

育て

時代とともに少しずつ形を変えてきた山代神楽。より力強く、より美しく――。継承者は、伝統を守りながらも、より洗練された神楽を目指しています。

【代表的な演目】



鵜退治（ういぢ）
平安時代後期、堀川天皇を悩ませていた、頭は猿、体は牛、手足は虎、尾は蛇という怪物「鵜」を、弓の名人源頼政が、従臣猪早太とともに退治する。



慶倫（けいりん）
仲哀天皇の時代（190年代）、異国から攻めてきて国々を荒し、多くの民を滅ぼしていた慶倫という大悪鬼を、仲哀天皇と高麻呂が討ち取る。



入蛇大蛇（いりへびおほへび）
神話の時代、悪行により高天原を追放された須佐之男命は、地上の国（豊原）で頭が8つ、尾が8つの八岐大蛇を退治する。

伝える

この素晴らしい伝統芸能を次世代に伝えるため、普段の練習・公演だけでなく、子ども神楽の育成や、山代神楽共演大会の開催など、将来に向けた様々な取り組みを進めています。

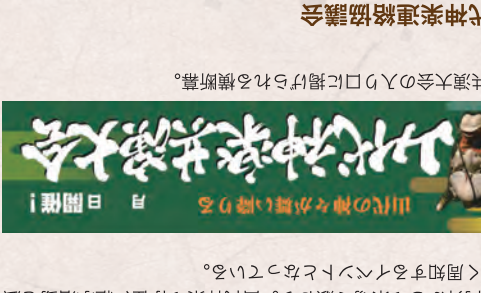
子ども神楽



向峠子ども神楽「大蛇」
地域の伝統文化に子どもたちの頃から触れてもらい、未来の担い手を育てている。



山代神楽共演大会
毎年11月末に山代神楽連絡協議会の主催により開催。県内外からの来場で賑わう。山代神楽の存在、継承活動を広く周知するイベントとなっている。



山代神楽連絡協議会
構成団体の交流、連携による保存体制の強化や、神楽を軸にした地域活性化等を目的として、山代神楽に起源をもつ7団体により、平成18年に設立された。

山代神楽

山里に響く鎮霊の音色



問い合わせ先

岩国市教育委員会文化財保護課
Tel.0827-41-0452 Fax.0827-41-0478
e-mail bunkazai@city.iwakuni.lg.jp
http://www.city.iwakuni.lg.jp/html/bunkazai/index.html

山代神楽連絡協議会 事務局

山代神楽

山口県岩国市

岩国市北部「山代地方」には
山陰から中国山地に縁の深い
神楽が伝承されています。

山代地方とは

岩国市北部（本郷町、錦町、美川町、美和町）を中心とした山口県東部の山間地域は、古代から山代地方と呼ばれてきました。山々の間を宇佐川、錦川、生見川などの谷川が流れ、風光明媚な山里が点在するこの地域は、古くから中国山地の要所として考えられてきました。

中世には大内氏、江戸時代には大部分が毛利氏（一部は吉川氏）の所領となり、藩の重要な特産物である紙の山地として知られました。

山代神楽とは

神楽とは元々、神様に奉納される舞楽のことをさす言葉です。山里の神楽の多くは、土地を守る神々に対して、鎮魂、五穀豊穡、災厄払拭などの意味を持ち、田植え前の春先や、稲刈り後の秋に執り行われます。毎年の奉納のほか、地域によっては数年に一度、式年祭と呼ばれる特別な祭りが行われます。近世までは神職による神楽奉納が一般的でしたが、明治以降、その多くは里人に引き継がれました。

現在山代地方に伝承されている神楽は、境を接する近隣の石見（島根県西部）や安芸（広島県西部）の影響を受けながら、独自の文化を育ててきました。

その総称を「山代神楽」と言います。





＝大江山＝

向峠神楽保存会：岩国市錦町宇佐郷向峠
〈岩国市指定無形民俗文化財 S50(1975).5.27指定〉

市内で最北に位置し、現在石見系神楽の影響が最も濃く見られる。天保の大飢饉(1833-1839)を憂いた当時の庄屋が十数年にわたる水路工事を完成させた記念として、安芸(広島県西部)に縁のある人物に山代神楽を習得させ、秋祭りで奉納した事が起源とされる。大正期(1912-1926)に石見神楽などを取り入れ、現在伝承されている形の原形が作られた。

保持演目 ①潮祓(しほらい) ②真神(まさかき) ③大江山(おおえやま) ④八幡(はちまん) ⑤貴船(きふね) ⑥女神(じゅうら) ⑦熊襲(くまそ) ⑧鹿輪(じゅりん) ⑨黒塚(くろづか) ⑩岩戸開き(いわとびらき) ⑪鍾馗(しょうき) ⑫鶴退治(ぬえたいじ) ⑬天神(てんじん) ⑭大蛇(おろち)

奉納 剣霊神社地区秋祭(10月下旬/毎年)



＝黄泉醜女＝

上沼田神楽保存会：岩国市錦町須川上沼田
〈岩国市指定無形民俗文化財 S56(1981).10.1指定〉

「古事記」の物語になぞらえた演目を伝承している。享保2(1717)年には行われていたといわれ、以来3回大きく形式が変化したと伝えられている。当初は信仰を目的とした神楽が行われていたが、次第に伝統行事としての意味合いが強くなり、その後広島県安芸郡白砂(現広島県広島市)から訪れた職人に鑑賞を主とする神楽を習い、現在に伝わる神楽の原形が作られた。

保持演目 ①天神地祇(てんしんちぎ) ②火の神(ひのかみ) ③黄泉醜女(よもつこめ) ④天の斑駒(あまのぶちこま) ⑤天の岩戸(あまのいわと) ⑥八俣大蛇(やまたのおろち) ⑦大国主の神(おおくにぬしのかみ) ⑧事代主の神(ことしろぬしのかみ) ⑨薙刀舞(なぎなたのまい) ⑩天孫降臨(てんそんこうりん) ⑪芝鬼人(しばきじん) ⑫五郎の王子(ごろうのおうじ)

奉納 神沼田神社奉納神楽(11月2日/毎年)



＝諸神＝

東谷神楽保存会：岩国市美和町洪前、西畑

山代地方に残る神楽の中で唯一、周防神舞系の様式を強く残している。かつて西畑地区中心部にある大元神社において神職によって奉納されていたが、明治以降、氏子によって舞われるようになり、神社の名前から大元神楽と呼ばれていた。地区には、天明8(1788)年の銘がある木製の古面が数点、および昭和51(1976)年の手引書が伝えられている。

保持演目 ①六神(ろくじん) ②諸神(しよじん) ③しゃすい ④ないぎ ⑤芝鬼神(しばきじん) ⑥荒霊武鎮(こうれいぶちん) ⑦日本記(にほんぎ) ⑧敷太刀(四季太刀)(しきだち) ⑨三鬼(さんき) ⑩天大將軍(てんだいしょうぐん) ⑪五郎王子(ごろうおうじ) ⑫岩戸(いわと) ⑬湯立て(ゆたて) ⑭神おろし ⑮長刀(ながなた)

奉納 大元神社秋祭(10月下旬/毎年)

山代地方には、中世から江戸末期までは周防神楽に近い「山代舞」と呼ばれる神楽があったと言われています。その後、広島県の安芸十二神祇や島根県の石見神楽の影響を受け、しだいに現在の形が作られてきました。かつては大きな村ごとに神楽団がありましたが、現在積極的に活動しているのは、錦、本郷、美和を拠点にする七団体です。「山代神楽」とひとことでいっても、その姿は伝承地ごとに個性があります。多彩な「山代神楽」の姿を御紹介します。

山代神楽の分布と特徴



- 活動中
- 休止中
- ・駄床神楽(岩国市美和町上駄床)
- ・名坪神楽(岩国市美和町名坪)
- ・大野神楽(岩国市美川町大野)
- ・向畑神楽(岩国市錦町向畑)
- ・木谷神楽(岩国市錦町木谷)
- ・上須川神楽(岩国市錦町須川上須川)
- ・佐古神楽(岩国市錦町須川佐古)
- ・大原神楽(岩国市錦町大原)
- ・宇佐神楽(岩国市錦町宇佐)



＝大江山＝

山代神楽本谷保存会：岩国市本郷町本谷
〈山口県指定無形民俗文化財 S51(1976).3.16指定〉

安政年間(1854-1860)山代一帯に疫病が流行した際、平癒祈願として奉納され、それ以来百数十年間絶えることなく伝承されてきた。出雲の流れをくむ安芸系神楽に「五行」を骨子とした備中神楽が強く影響していると考えられ、その起源は享保年間(1716-1735)にさかのぼるともいわれる。

保持演目 ①禊祓(みそぎはらい) ②御神楽(おかぐら) ③導きの舞(みちびきのまい) ④七夕舞(たなばたまい) ⑤恵比寿舞(えびすまい) ⑥那須野ケ原(なすのがはら) ⑦岩戸(いわと) ⑧大江山(おおえやま) ⑨小太刀(こたち) ⑩柴鬼神(しばきじん) ⑪八岐の大蛇(やまたのおろち) ⑫山の神(やまのかみ)

奉納 河内神社秋祭(10月第2土曜日/毎年・式年祭)



＝八岐乃遠呂智＝

山代白羽神楽保存会：岩国市美和町北山二ツ野
〈山口県指定無形民俗文化財 S51(1976).3.16指定〉

地区の中心にある白羽神社の社殿落成式が天保10(1839)年に行われた際、佐伯郡明石村(現広島県廿日市市)の神楽を招聘したと言われ、以来現在に至るまで一度も絶えずに伝承されてきた。安政5(1859)年生見八幡宮鎮座1000年祭の際「二ツ野山代神楽舞献納」の記述があり、また、演目や次第について明治以降の文書が残されている。

保持演目 ①禊祓(みそぎがくら) ②一人神楽(ひとりかぐら) ③湯立神楽(ゆたてかぐら) ④猿田彦(さるたひこ) ⑤恵比須(えびす) ⑥小太刀(こたち) ⑦柴鬼神(しばきじん) ⑧三鬼(さんき) ⑨天の岩戸(あまのいわと) ⑩大江山(おおえやま) ⑪八岐乃遠呂智(やまたのおろち) ⑫天大將軍(てんだいしょうぐん)

奉納 白羽神社人丸祭宵祭(9月17日/毎年) 白羽神社秋期夜殿祭(11月2日/毎年・式年祭) 白羽神社天神祭宵祭(毎年12月13日) 生見八幡宮秋祭夜殿祭(10月第4土曜日/隔年)



＝恵比寿＝

金山神楽保存会：岩国市美和町生見金山

起源は享保年間(1716～1735)にさかのぼり、生見八幡宮で舞い始められたと伝えられる。伝統的な山代神楽の演目を受け継ぎ、生見各地の小祠の式年祭で山鎮舞を奉納するなど周囲の伝統行事との関わりも深い。享保8(1723)年および明治時代に作製された資料の写し(昭和24(1949)年写)が伝わる。

保持演目 ①神殿開き(かんだのひらき) ②煤掃き(すすはき) ③七夕(たなばた) ④三賛返し(さんさんがえし) ⑤小太刀(こたち) ⑥五郎皇子(ごろうおうじ) ⑦恵比寿(えびす) ⑧柴鬼神(しばきじん) ⑨三鬼(さんき) ⑩大江山(羅生門・金時・鬼退治)(おおえやま・くらしょうもん・きんとき・おにたいじ) ⑪大蛇(おろち) ⑫天の岩戸(あまのいわと) ⑬山締め(やまじめ)

奉納 生見八幡宮秋祭前夜祭(10月第4土曜日) 柿木原年祭(10月/式年祭) 長野年祭(11月/式年祭) 牛ヶ多和年祭(11月2日/式年祭)



＝大江山＝

釜ヶ原神楽団：岩国市美和町釜ヶ原
〈岩国市指定無形民俗文化財 H5(1993).3.12指定〉

小瀬川を挟んで広島県境に位置する。江戸時代までは周防神舞系の神楽が舞われていたが、明治から大正にかけて現在の神楽の原型となる狂言神楽が本郷村(現岩国市本郷町)から伝わったといわれている。昭和初期から戦前までは素面で行う太夫舞が盛んに舞われていたが、現在は劇的要素が強い着面の舞も積極的に披露されている。

保持演目 ①湯立て(ゆたて) ②煤掃き(すすはき) ③七五三(しめぐち) ④柴鬼神(しばきじん) ⑤三刀(さんとう) ⑥さすい ⑦恵美寿(えびす) ⑧三鬼(さんき) ⑨姫取り(ひめとり) ⑩金時(きんとき) ⑪五郎納寿(ごろうのうじゅ) ⑫天岩戸(あまのいわと) ⑬御神楽(おかぐら) ⑭大江山(おおえやま) ⑮八又の大蛇(やまたのおろち) ⑯大將軍(だいしょうぐん) ⑰塵倫(じゅりん)

奉納 河内神社地区秋祭(10月中旬/毎年)